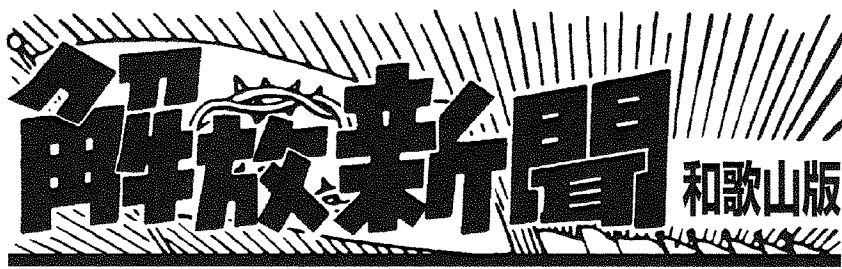


当面のスローガン

- 「人権侵害救済法」制定を!
- 狭山再審闘争勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局

〒640-8314
和歌山市神前405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302

発行責任者
中澤敏浩



全国水平社創立90周年記念集會

全国水平社創立大会と同じ地でひらかれた記念集會

先人の礎を受け継いで

全国水平社創立90周年記念集會

全国水平社創立90周年の記念集會が、水平社創立の地である京都公会館(当時、岡崎公会堂)において、全国各地から2千人の参加のもと開催された。記念集會は、部落差別によるきびしい生活のなかで、子守り奉公をする子どもたちの苦悩を歌った「竹田の子守唄」の合唱で開会し、参加者全員による解放歌の合唱と各都府県連荆冠旗の入場のあと、部落解放運動の志半ば

でその生涯を閉じた物故者・無名戦士に対する黙祷、さらには、日本ではじめての人権宣言である「水平社宣言」が、俳優の中西和久さんにより朗読され、90年の運動の歴史を参加者全員で再確認した。主催者を代表し、組坂繁之・中央執行委員長は、全国水平社の運動の歴史と先人たちに対する敬意と運動を継続・発展させるという決意、今日における部落差

別の現状が示され、つづいておこなわれた政府・政党・京都府・京都市からの代表あいさつでは、日本の人権運動を担ってきた全国水平社の闘い、90年経過した今でも色あせない水平社宣言の精神、今日における部落解放運動と人権確立社会の実現に向けた共闘姿勢が示された。

開会行事のあと、部落解放運動に多大な業績を残された、上田正昭・京大名誉教授ほか、沖浦和光・桃山学院大学名誉教授の2

記念レセプション

吉祥院六齋念仏踊りを披露

同日、全国水平社90周年記念レセプションが、ホテルオークラ京都で、参加者500人のもとおこなわれた。開会に先立ち、組坂

の舞台で踊ることを禁止され、千年もの昔から見よ

見まねで大衆に広がり継承されてきたといわれる「吉祥院六齋念仏踊り」が舞台上で披露され、記念レセプションを盛り上げた。

中央執行委員長から「水平社の歴史と伝統を振り返り、厳格ななかで記念集會をとりおこなったが、レセプションにおいては、交流と歓談を楽しんでください」というあいさつのあと、参加した多くの来賓が順に紹介され、乾杯でレセプションがはじまった。レセプションでは、部落差別によって、吉祥天満宮



レセプションを盛り上げた「吉祥院六齋念仏踊り」

人が「松本治一郎賞」受賞あいさつにつづき、同じく部落解放運動に貢献した功労者134人・物故者72人の紹介がされ、和歌山県連から、功労者として、中澤敏浩・県連委員長(杭ノ瀬支部)、瀧口秀光・県連顧問(平井支部)、物故者として、故松井正彦・元企業連理理事長(杭ノ瀬支部)、故藤本要(杭ノ瀬支部)、故松井隆教(杭ノ瀬支部)が表彰された。

つづいて、人権問題にとりくむマイノリティ当事者からのアピールがあった。最後に「差別という暗闇のなかにある」とわれわれは道を間違わず、世のケガレをキヨメるは吾々の勤めと銘じてすすもう」とする集會アピールを採択して記念集會を終えた。

頑健

最近のこと。「子どもの籍」をめぐる。性同一性障害が認められた「男性」が恋愛結婚した。当然のように子どもが欲しいということ。パートナーが、精子提供を受け妊娠・出産した。しかし、出生届を出した新宿区役所の窓口で二人の子として認められなかった。理由は、男性の戸籍欄に女性から男性に変わった旨の記載があった。通常「夫」に生殖能力がなく、精子提供によって生まれた子どもは、二人の子どもと認知される。▼受理されなかった理由の「記載事項」に何の意味があるのか。「性同一性障害」が理解されて、相当年月が経ち、さまざまな「性のかたち」パートナーや家族のかたちが「人権の課題」として提起されてきている。▼子ども側で考えれば、さらに問題だ。「人権の基本理念」に「何の条件も必要としない」ということがある。しかし、現実には「子どもの生まれ方」によって法制上もそうであるし社会的にも差別を受ける。子ども自身に何の責任もないのに、である▼法務省の「性同一性障害」の父親の遺伝子が「性同一性障害」という人権意識が欠落した見解。しかし、この父親、この家族、そしてこの子どもの人権や幸福は、ユースで「子どもは、私たちが夫婦の子どもです。この子の父親は、わたしです」という父親の姿が流れている。(S・I)